

新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 250 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

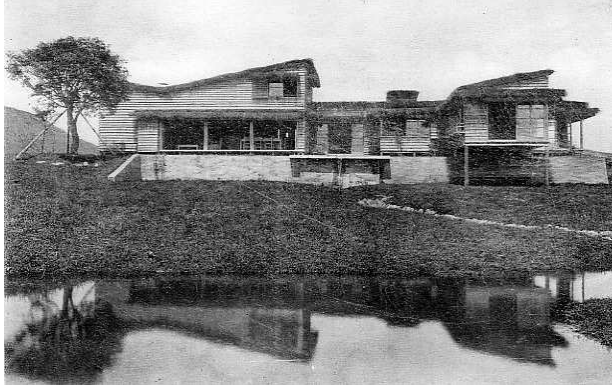
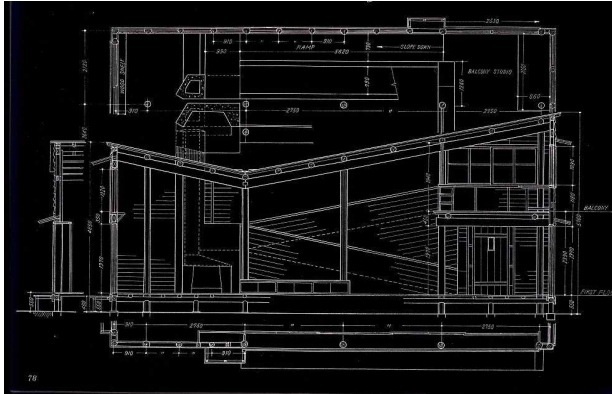
2018.2.21

—藤森著『日本の近代建築』の分析—第 16回

話：三沢浩

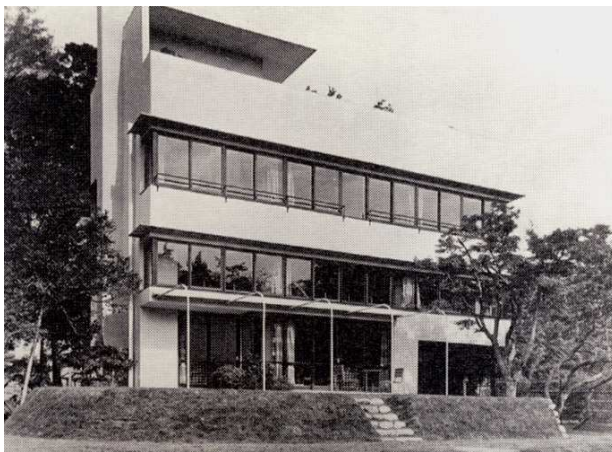
日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド第11回(スライドXI)

■ 寺子屋 250は6人の参加で開催されました。日本で教鞭をとられているチェコからの研究者も参加です。



夏の家

(下)赤星喜介邸



■ レーモンドは日本の四季を発見し、日本建築の中にモダニズムの本質を見出すとともに、さまざまな世界のモダニズム潮流を取り込み、試していきます。コルビュジェもその一人で、ニューヨークに来たコルビュジェを案内もしています。そうした中でもレーモンドの独自性は、風土の限定の中でモダニズム建築をその地に実際に実現させ続けていった驚くほどの実行性であり、『詳細図譜』はその軌跡の証明を普遍化するものです。

新建・寺子屋(モダニズムの研究) 250

2018年2月21日(水)

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

—藤森著『日本の近代建築(上、下)』の分析—第 16回

日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド 第 11 回
(スライドXI)

話：三沢浩

1. 前回のスライドXへの補足

- 1)レーモンドの「霊南坂の自邸」の図面不足とクローデルの賛辞
- 2)オーギュスト・ペレ風は「聖路加の塔」「女子大の塔」、加えて「ライジングサン横浜」
- 3)コルビュジェ風のモダニズム建築はあったか？住宅以外に…
- 4)フォイアシュタインの参加した建築を加えて

2. 今回のスライドXIのポイント、藤森のとり上げた点に加えて

- 1) 打放しコンクリートの「霊南坂の自邸」以外は？
- 2) 「赤星喜介邸」のモダニズム風と『詳細図譜』の紹介
- 3) 特に「夏の家」について、細部の説明

3. 『詳細図譜』の最も重要な部分とは

- 1)なぜ英文で出版か、それも、場所、作品名がない
 - 2)モダニズム建築に不足している土地柄や季節のこと
 - 3)ケネス・フランプトンの指摘しているポイントとは
- ## 4. 「モダニズム建築」をレーモンドはどう表現したか
- 1)戦前、'30年代のRC造住宅を『詳細図譜』に表現
 - 2)また'30年代の木造モダニズム住宅も入れた(ブレイク邸など)
 - 3)鶴見の「フォード自動車組立工場」はどうなったか

次回 <寺子屋 251> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読

藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第 17回

話：三沢浩

日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド 第 12回

2018年3月14日(第2水曜日に変更) PM 7:15~

(次回定例の第3水曜日は休日にあたるので、第2水曜日に変更します)

場所:新宿区水道町 2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費:400円 問合:大崎元 (有)建築工房匠屋 VED03705@nifty.com